

講義名	観光文化論/文化観光論			授業形態	
担当教員	山川 拓也	開講期・曜日・時間	前期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

本科目では「人間の文化としてのツーリズム（観光文化）」が、私達の生活や生き方にとってどのような意味を持つのか、社会全体においてどのように受容されているのか、という根本的かつ比較的大きなテーマに対し、人文社会学的な視点・レンズを通して探究していく。関係する知識・概念等の習得をもってツーリズムの文化構造について理解し、今や我々の生活の一部となった「観光」の意義と重要性を一層深く認識できるようになることを目指す。

具体的には、以下の内容について学習する。

- ・旅や観光という現象がどのような形で行われてきたかを中心に、それらが社会に与えた影響や時代毎の評価など、過去における観光の姿を理解する。
- ・20世紀以降における観光の特徴的な動きについて、主要テーマ毎に紹介することにより、現代の人が好み、求める観光の形を把握する。
- ・20世紀後半から議論され始めた「新しい観光」の概念を理解し、現代社会において観光がどう評価されているかを検証し、これから私達は観光にどのように向き合っていくべきなのかを考える。

到達目標

・関係する知識・概念等の習得をもってツーリズムの文化構造を理解し、人間社会における生活文化としての「観光」の意義と重要性を認識できるようにする。

提出課題

- ・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「リアクション・ペーパー」（responまたはCampus-Xsで実施予定）
- ・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「理解度確認（小テスト）」（Campus-Xsで実施予定）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

「理解度確認（小テスト）」、「リアクション・ペーパー」の記載で解説や補足を加える必要があると認められたものは、適宜それを共有する。

評価の基準

下記による総合評価とする。

毎回の「リアクション・ペーパー」と「理解度確認（小テスト）」への取り組みと提出状況：30%

期末試験（対面にて実施予定）：70%

- * 毎回の出席確認は厳格に実施する。
- * の提出がない場合、得点は0（ゼロ）点となり、成績評価に影響を及ぼす。
- * 遅刻の欠席回数5回以上になった場合、評価を受ける資格がなくなる。（失格/E）
- * 遅刻・早退（時間の余裕を問わない）は、1回につき0.5回の欠席として算入する。
- * スマホ等の電子機器類の無許可かつ私的な使用、私語や睡眠の継続、教員の指示や指導に従わない等は態度不良・授業妨害と判断し、評価に重大影響を及ぼす。
- * リアクション・ペーパーの記述内容が優れた場合、一定基準のもとで加点する。

履修にあたっての注意・助言他

本科目は、人間社会学部の「学部専門基礎科目」に位置づけられる。その意味とは、所属する学科に関係なく、人間社会学部の学生が専門科目を受講する上での共通基盤を形成できるようにするものである。したがって、本科目の意義と重要性を十分に認識して受講することを切に期待する。

教科書

・使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考文献

・観光文化学 旅から観光へ、	飯田芳也	古今書院	2750	9784772231473
・ツーリズムと文化体験 “場”の価値とそのマネジメントをめくって、	安福恵美子	流通経済大学出版会	2970	9784947553393
・よくわかる観光社会学（やわらかアカデミズム わかる シリーズ）	須藤廣（編集）、遠藤英樹（編集）、高岡文章（編集）、松本健太郎（編集）	ミネルヴァ書房	3080	9784623091874

その他

プリント資料：毎回の授業では講義レジュメを配布し、パワーポイントを使用して授業を実施する。

授業計画

- 【イントロダクション】科目概要・授業方法・成績評価等の説明、「旅の原点」について（開講）
- 【観光 / 観光文化とは】関係する用語と概念の整理
- 【観光の歴史を知る】古代期から中世期までの旅・観光（概説）
- 【観光の歴史を知る】中世ヨーロッパを起源とする「学びのための旅・観光」
- 【観光の歴史を知る】中世ヨーロッパを起源とする「保養のための旅・観光」
- 【観光の歴史を知る】19世紀の近代ヨーロッパ社会で成立した「近代的旅行業」
- 【観光の歴史を知る】20世紀になって隆盛した「マス・ツーリズム」の文化的形態
- 【現代観光を理解する】近年における旅行・観光の形態変化と多様化
- 【現代観光を理解する】テーマパークに見る「非日常的な観光空間の演出」
- 【現代観光を理解する】インドネシア・バリ島の観光芸術イベントに見る「真正性と商品化」
- 【現代観光を理解する】文化商品としての「名門ホテル」
- 【観光の未来を考える】マイナス・インパクトとしての「観光公害とオーバーツーリズム」
- 【観光の未来を考える】ソーシャル・グッド（social good）な観光の推進
- 【観光の未来を考える】地域融合型・地域主体型の観光概念としてのコミュニティ・ベースド・ツーリズム
- 【観光の未来を考える】先進事例から考える、これから（未来）の観光文化の創造

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- （予習：120分 / 回）
新聞や雑誌を含む書籍類、インターネット等のメディア情報にアクセスし、授業内容や観光文化に関連する情報を収集しておく。
- （復習：120分 / 回）
当日の授業を整理するとともに、テーマに関する動画類を検索・視聴するなど、学習の効果的定着に努める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目は「人間社会における生活文化としての観光」について学ぶために開講されるものであって、本学のDP（卒業認定・学位授与の方針）に示される以下の項目に対応するものである。

- ・現象や事象のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる。（課題発見力）
- ・収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる。（情報分析力）

尚、本科目は、学部共通DPに示される項目『財やサービスの流通に関わる社会の構造と変動、およびそれをもたらす人間の行為・行動を解き明かすことができる人材の育成』にも対応している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・毎授業後に実施する「理解度確認（小テスト）」や「リアクション・ペーパー」等の課題への取り組みにおいて、responもしくはLMS（Campus-Xs）を活用する。
- ・必要に応じて授業中でもresponを使用し、意見収集等を行うことができる。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
旅行業および旅行サービス手配業での実務経験（欧州を中心とする海外団体旅行の企画・運営、添乗、海外駐在、市場戦略策定）により得た知識・知見を活用し、分かりやすい事例紹介なども取り入れながら、本科目の目標に学生が到達できるように努める。

備考

- ・科目の進捗状況等によって授業の内容や順番を変更する場合があります。その際には事前に告知する。